

CBC第31回小学校作文コンクール

文部大臣奨励賞受賞作品

原作 高橋 知里

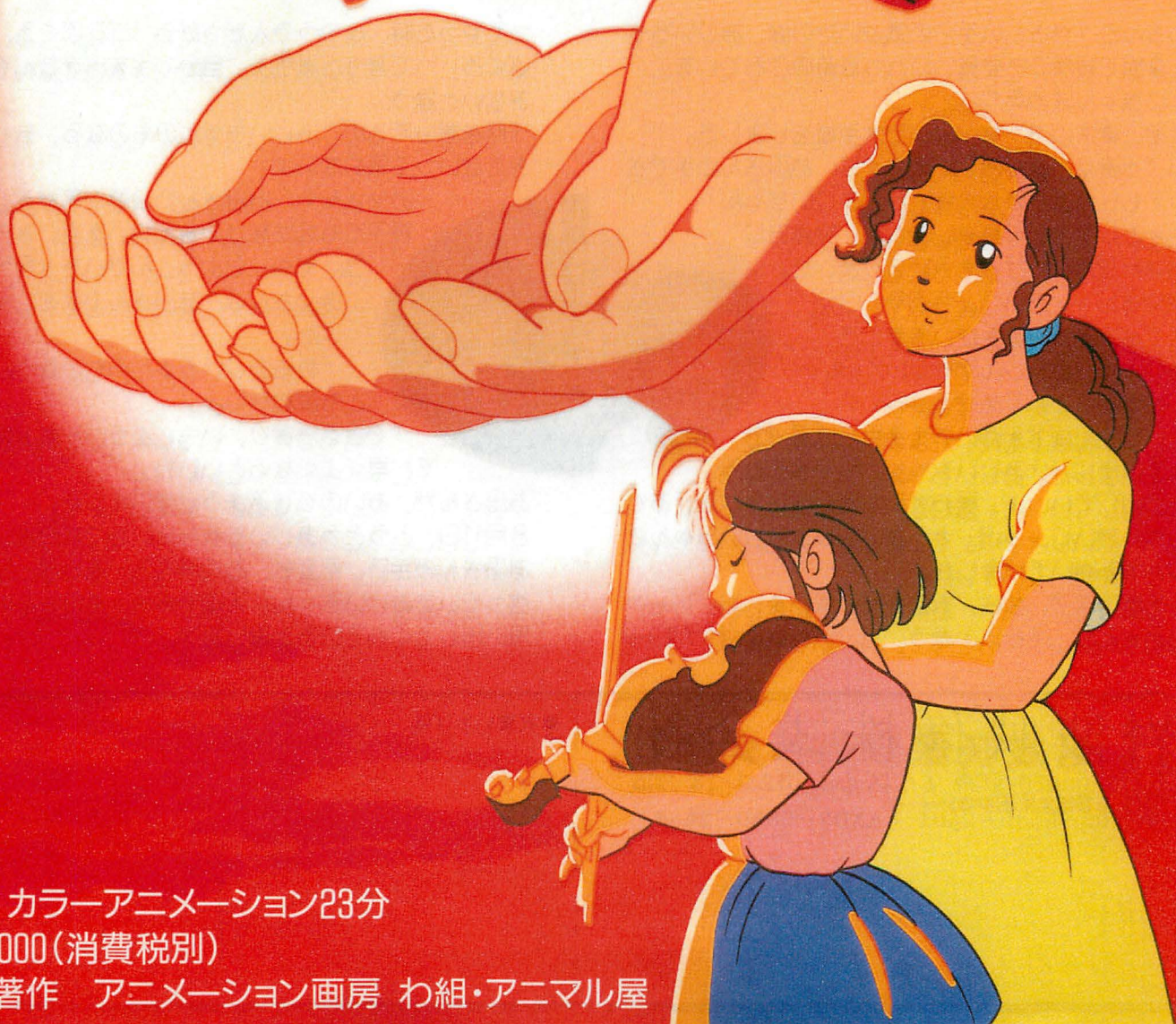
文部省選定

家族ってなんだろう!?

やさしさとは?

おもいやりとは?

おがあさんの やさしい手



16mm カラーアニメーション23分

¥230,000(消費税別)

製作・著作 アニメーション画房 わ組・アニマル屋

おじいちゃんの口元に 差し出された母の手に やさしさを見つけた!

製作意図

核家族化が進む今日、従来の家族制度が崩れ、世代を中心とした個人の生活が重視されるようになりました。その反面、親子、夫婦の絆といった家族の間の心の結びつきという大切なものが軽視されているように思われます。

この作品は、病床にある祖父に対する母のやさしい行為に深い感動を覚えたひとりの少女（当時小四）が綴った作文を映像化したものです。この小さな作文が発表されるや多くの読者に大きな感動を与え、その感動の波は、やがて大きな広がりとなってゆきました。

この映画が、私達がややもすると忘れがちな家族愛について、あらためて考えるきっかけとなることを、心から願うものです。

あらすじ

お母さんの「やさしい手」に気付いたのは、おじいちゃんを家族で病院にお見舞いに行った時のことでした。

おじいちゃんは今年72才。

四年前に東京のガンセンターで大手術をしました。

このごろ時々、胸が苦しくなるとは、お母さんに手でさ

すってもらおうようになりました。おじいちゃん

は目をとじて大きく息をしました。突然おじ

いちゃんが苦しく吐きそうになりました。

「お父さん! だいじょうぶ?」口元

にさっとお母さんの手がいきました。

「お父さん。遠慮しなくても吐いていい

よ。手で受け止めてあげるから」

おじいちゃんは下を向いたまま目には涙がた

まっていました。「おじいちゃん。私の手のひら

の中に出していいよ」思わず私も差し出しました。「あり

がとう。だいじょうぶ」そう言いながらおじいちゃんは

ずっと下を向いていました。

帰りの車の中で、私は、お母さんに言いました。

「お母さんは、えらいと思う。おじいちゃんが『げえー』

ってやった時、ふつうの人だったら『ゴミぶくろ、ゴミぶくろ』って言うと思うよ。自分の手を出すなんて、できないと思う」

「何を言ってるの。おじいちゃんのものなら、ちっともきかないって思わないよ」

「お父さんも、お母さんには頭が下がる。実の親子でもなかなかできんね。本当にありがとう。おやじもよろこんでいたと思うよ」

お父さんは、お母さんの手をにぎりま

した。

「私もおじいちゃんのものなら、なん

とも思わないよ」

「できるかぎり、いっしょうけん命お世話し

て、早くよくなるといいね」

お母さんが、おいのりするように言いました。

8月11日、とうとうおじいちゃんは、なくなりました。

お母さんの手に、何度も、ありがとう…ありがとう…と

言っていたおじいちゃん。天国できっとお母さんの手を思い出してくれていると思います。



●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101